

令和5年度第3回緑区支え合いのまち推進協議会議事要旨

開催日時 令和6年3月16日（土）午後2時～午後4時

開催場所 緑保健福祉センター2階 大会議室

出席者

（委員） 石本委員、伊藤委員、大槻副委員長、岡本委員長、角川委員、木之内委員、久保委員、小林委員、笹塚委員、茂田委員、篠原委員、末永委員、鈴木委員、豊田委員、野崎委員、馬場委員、廣田委員、福邊委員、安川委員、山本委員、四倉委員、迫谷委員、茂庭委員

（事務局） 長瀬緑区長、石井緑区副区長兼総務課長、
村田緑保健福祉センター所長兼高齢障害支援課長、土谷地域づくり支援課長、
石毛社会福祉協議会緑区事務所長 他5名

計 33名

【次第】

1 開 会

2 委員長挨拶

3 議 題

（1）第5期計画「具体的な取組み」の確定について（全体ワーク）

（2）広報誌「みどりのきずな第41号」の承認について（全体ワーク）

（3）令和5年度の取組状況及び令和6年度計画の作成について（依頼）（グループワーク）

（4）その他（参考事例発表）（全体ワーク）

4 閉 会

【議事要旨】

議題（1）第5期計画「具体的な取組み」の確定について（全体ワーク）

事務局より、第5期計画「具体的な取組み」の確定について、資料1を使用して説明し、パブリックコメントの結果、原案通りとなったこと、区計画を含む市計画全体については、3月29日に開催する千葉市社会福祉審議会地域福祉専門分科会での審議を経て正式に確定することについて報告した。

議題（2）広報誌「みどりのきずな第41号」の承認について（全体ワーク）

事務局より、広報誌「みどりのきずな第41号」の承認について、資料2を使用して説明し、内容について承認を得た。

議題（3）令和5年度の取組状況及び令和6年度計画の作成について（依頼）（グループワーク）

事務局より、令和5年度の取組状況及び令和6年度計画の作成について、資料3を使用して、説明及び依頼を行った。回答期限について、延長できないかとの意見があったが、原則令和6年5月31日を期限とし、団体の状況によって対応することとなった。

また、グループワークを実施し、各団体の令和5年度の取組状況等について、情報共有及び意見交換を行った。

※グループワークの議事要旨は、次ページ以降にグループ毎に記載しています。

※簡潔にするため、文体は常体で表記しています。

※その他（参考事例発表）の議事要旨は、最終ページに記載しています。

誉田エリア

リーダーの進行により、各委員から令和5年度取組状況について発表するとともに意見交換を行った。

■社協地区部会

(山本委員) 誉田地区部会では、取組項目4「障害者(児)・その家族が集う場の開設・拡充・情報提供」の取組として、千葉リハビリテーションセンターの児童発達支援センターを見学した他、障害者施設(エルピザの里、銀河舎、しいのみ園)に慰問品として消毒用スプレーとタオルを贈呈した。

大きな目標として、障害者やその家族が集う場の開設を掲げているが、具体的な取組みは実施できていない。今後、市と連携して進めたい。

また、取組項目16「見守り活動の推進」の取組では、団体の新設はなかったが、一人暮らしの高齢者が増えているため、見守り隊と民生委員が連携して見守りを実施したい。

■民生委員児童委員協議会

(安川委員) 民児協では、計画していた取組は、予定通り実施できた。

取組項目2「子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流」の取組として実施したラジオ体操は、子どもの参加は得られず、高齢者数名の参加となった。誉田中学校の「地域ふれあいタイム」には今年も参加し、作成したJINKEN(犬のぬいぐるみ)を、2月末と3月始めに誉田小学校及び誉田東小学校に寄贈するとともに、講話を行った。

取組項目3「高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供」の取組として実施している「ふれあいカフェ」は、コロナの影響で中止していたが、令和5年度は数回実施することができた。

取組項目5「子育て中の親や子どもが集う場の開設・拡充」の取組としては、子育てサロンを、誉田町1丁目公会堂、誉田町2丁目第一自治会館及び高田町で実施している。高田町は、子育て世帯が多く、参加者が多いが、誉田町1丁目は参加者が少ない。

取組項目16「見守り活動の推進」の取組としては、登下校時の見守り、高齢者の見守りを実施している。

取組項目18「地域の課題解決に向けた連携」の取組としては、あんしんケアセンターが2カ月に1回開催している誉田あんしんネットワーク会議に参加している。高齢者の見守りに関して、あんしんケアセンターと民生委員の連携がよくとれているため、とても助かっている。

■町内自治会連絡協議会

(大槻副委員長) 誉田地区連協では、取組項目1「情報の収集と共有化」の取組として、毎月地区連協の代表者会議、2カ月に1回正副会長会議を開催し、情報共有を図っている。

取組項目2「子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流」の取組としては、かかしアートの取組を実施しており、令和5年度は17体のかかしを作成し、区役所や学校にも展示してもらうことができた。

大人と子どもが交流する良い機会となっている。

また、元旦マラソンは例年通り実施することができた。

その他、施設にいる子どもや引きこもりの子どもがどうしてもしたら街に出てもらえるか、民生委員とも相談しながら支援を進めており、町内自治会では、学校の放課後教室や昔遊びにも積極的に参加してもらっている。

取組項目6「地域の行事への積極的参加の呼びかけ、文化の伝承」の取組について、高田ニュータウンは若い世代が多く、地域活動への参加が少ないため、活動に参加してもらえよう役員が地域の話し合いの場に出席する等交流に努めている。

取組項目12「防災訓練の充実、意識啓発、体制整備」の取組としては、避難所開設訓練を実施しており、懇親会等でその内容を話し合っている。

取組項目11「生活環境の整備」や取組項目15「助け合い活動の推進・外出困難者への支援」の取組としては、誉田駅周辺で、歩道橋の整備や道路の拡幅工事等を実施しているが、緑区長にも協力いただき、市関係部署に話を通してもらえたおかげで、円滑に進めることができ、感謝している。

また、バス路線の新設について、平川町の住民から要望を受けているため、乗車人数等の把握を行い、バス会社と運行の可否について話し合いを進めたい。

■あんしんケアセンター

(迫谷委員) あんしんケアセンター誉田では、取組項目3「高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供」の取組として、31か所あるサロンや通いの場に訪問し、健康測定会等を実施している。

移動販売に関しては、スーパーレオが実施している「まごころ便」が2月で終了してしまった。今後、地域の他のサービス（加藤商店の配達等）につなげられないか検討している。

取組項目18「地域の課題解決に向けた連携」の取組としては、誉田あんしんネットワーク会議を開催し、関係機関と情報共有している。

取組項目19「自宅療養中の家族がいる家庭への支援」の取組としては、認知症サポーター養成講座を民生委員や一般の方向けに実施している。

取組項目20「ボランティアの確保」の取組としては、社会福祉協議会ボランティアセンターからの紹介を受けて、認知症カフェにつなぐ等の活動をしている。子どもの集まる場所に訪問して、若い世代とつながりを作り、ボランティアの担い手の発掘を予定していたが、実施には至らなかった。

また、誉田地区には長寿会が3か所あったが、うち2か所が担い手不足により解散となった。一方で新たに活動を始める団体もあるので、支援を継続していきたい。

■ときわ園

(石本委員) ときわ園では、取組項目2「子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流」として、土気公民館、生涯学習センター、ときわ園をオンラインでつなぎ、職場体験中の中学生5名（大椎中3名、高浜中3名）とデイサービス利用者とのオンライン交流会を開催し、中学生の演奏にのせて童謡の歌唱や脳トレゲームを実施した。

取組項目6「地域の行事への積極的参加の呼びかけ、文化の伝承」として、わくわく食事会の開催等を計画したが、コロナの影響により未実施となった。

取組項目12「防災訓練の充実、意識啓発、体制整備」として、東大生産技術研究所と連携し、Bossシステムの導入に取り組んだ。

■その他意見概要

(安川委員) バス路線の新設については実現できそうか。

(大槻副委員長) 今は非常に難しい。以前は、千葉中央バスと市長と直接話ができ、土気、平川、高田、菅田地区を循環するバスの導入を進めていたが、市長が交代したこともあり、話が立ち消えてしまった。

今回、高田ニュータウンの住民にバスの利用について調査したところ、乗らないという結果であった。平川町には、10人程度バスを利用したい住民がおり、買い物や通院には交通手段が必要なため、今後、乗合バス等も含めて検討し、行政とも相談していきたい。

(迫谷委員) いきいきプラザの利用者もバスがなくて不便しているという声がある。施設利用者の要望ともつなげられると良い。

(大槻副委員長) いきいきプラザに関しては、利用時間が16時までなので延長してもらえると良い。

(山本委員) 地区部会では、小学生を対象に、集まる場所づくりを検討しており、菅田東小学校付近の自治会館を借りて夏休みに実施を予定している。その他、ボランティア委員会では、講座の実施を予定している。

椎名エリア

リーダーの進行により、各委員から令和５年度取組状況について発表するとともに意見交換を行った。

■社協地区部会・■民生委員児童委員協議会

- (岡本委員長) 椎名地区では、取組項目３「高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供」の取組として、１１月から「ふれあい食事会」を再開した。毎月、定例開催しており、最近では毎回１５名程度の参加を得ている。
- (鈴木委員) 毎回メニューを変更する等、工夫しながら楽しく実施している。
- (岡本委員長) 取組項目１７「健康づくり支援」の取組としては、健康体操会を実施している。
- (鈴木委員) 健康体操会は、ななゆめの里やあんしんケアセンターにも協力してもらい、各町内の公民館等を借用し、高齢者の方を中心に集ってもらい実施している。毎回２時間程度、体操や健康に関する話し合いをしており、認知症防止の体操や関節炎防止の体操、尿漏れ防止の体操等、内容も工夫している。
- (岡本委員長) 取組項目６「地域の行事への積極的参加の呼びかけ、文化の伝承」の取組としては、これまで中止していた「福祉バザー」を再開した。今回のバザーの売上については、半分は民生委員へ、半分は能登半島地震での被災地に寄付を行った。令和６年度も拡大して実施していきたい。その他「敬老会」も実施している。
- (鈴木委員) 敬老会は、１０月の始めに７５歳以上の高齢者を対象に懇親会を開催した。参加者同士で和やかに触れ合うことができた。
- (岡本委員長) 取組項目２「子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流」の取組としては、椎名小学校の生徒を対象に、椎名ライスセンターの見学、田植え体験、稲刈り体験を実施した。また、収穫したお米を使用して、感謝の会を開催した。
- (鈴木委員) 感謝の会では、収穫したもち米で、椎名小学校の５年生におはぎづくりを体験してもらい、関係者で味わった。

■あんしんケアセンター

- (四倉委員) あんしんケアセンター鎌取では、取組項目３「高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供」の取組として、椎名地区で開催された２回目の「ふれあい食事会」に参加した。当日は、交通の便が悪く、参加者が少なかったが、地域の方と触れ合うことができた。
- (岡本委員長) 椎名地区の他の活動にもぜひ積極的に参加してほしい。

■その他意見概要

- (廣田委員) 自身が居住している大椎台地区のバス路線が4月から廃止となり、非常に困っている。鎌取駅から大宮団地を経由して都賀に行くバス路線も廃止となる。大宮団地では、市が補助し、コミュニティバスを委託運行すると聞いている。椎名地区ではどうか。
- (鈴木委員) 椎名地区は、イオンタウンからのバス路線があり、今のところ不便はあまり感じていない。
- (廣田委員) 以前に話題に出ていた椎名公民館の建て直しについてはどうなったか。
- (岡本委員長) 椎名地区の住民約1,600人にアンケートを実施した。今後、集計結果に基づいて、市生涯学習振興課と協議を進めていく。区とも連携していきたい。
- (廣田委員) 令和5年度は、小学校の生徒に対する福祉講座は実施したのか。
- (岡本委員長) 民生委員が4年生を対象に福祉出前授業を行っている。
- (廣田委員) 協力できることがあればぜひ声をかけて欲しい。

土気エリア

リーダーの進行により、各委員から令和５年度取組状況について発表するとともに意見交換を行った。

■社協地区部会

(茂田委員) 取組項目１「情報の収集と共有化」の取組として、「ふくし」の発行を行っている。今までは地区部会の活動のみ取り上げることが多かったが、地域の活動等を取り上げることも増えた。年２回の発行なので、取り上げられる内容に限りはあるが、町内会の活動を載せていくことで「ふくし」に興味を持ち、地域について知ってもらえればと思う。以前から、民生委員による特集ページを設けており、今年度も引き続き行った。身近に感じにくい民生委員の活動を知って、身近に感じてもらえればと思う。成果は、「ふくし」を見て地区部会のボランティアに参加したいという人が出てきた点。課題は、町内会を通して配付しているものなので、町内会に入っていない人には配れていない。

取組項目３「高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供」の取組として、コロナの影響で活動できていなかったいきいきサロンとボッチャサロンをほとんど再開させられた。しかし、コロナの影響による会員減少、ボランティアの高齢化等の課題が挙げられる。

取組項目１２「防災訓練の充実、意識啓発、体制整備」の取組として、防災対策課の出前講座で、東日本大震災の話等から防災への意識を高めることができた。

(事務局) いきいきサロンについて、ほとんど再開できたとのことだが、計画通り１９か所で行うことができたのか。

(茂田委員) １か所だけ、コロナと関係なく休止しているところがあるが、それ以外は再開させることができた。

■民生委員児童委員協議会

(木之内委員) ５０４地区は、以前より高齢者の集いの場の開設や地域活動への積極的参加、地域課題解決に向けた連携をとっていくことに注力している。

５０５地区は、増加傾向にある空き地・空き家の解消法について検討している。

５０９地区は、取組項目１「情報の収集と共有化」の取組として、行政の広報活動が住民まで届いていない場所が多々ある。土気地区部会の広報誌に寄稿を行い、情報がない住民の解消を図っている。取組項目１２「防災訓練の充実、意識啓発、体制整備」の取組として、市で出している避難行動要支援者名簿を基に、避難行動要支援者のサポーター作りに力を入れていければと思う。

５１０地区は、独居高齢者が増加傾向にあり、見守り活動に力を入れていきたい。

■町内自治会連絡協議会

- (野崎委員) 取組項目12「防災訓練の充実、意識啓発、体制整備」の取組として、避難所を開設した際に、リーダーシップをとれるような体制をつくるため、防災対策講座を2名が受講した。防災対策のスキルアップ講座にて、家具転倒防止や避難所の簡易トイレ等について、住人に指導できるように理解を深めた。自治会館や集会所を地域避難施設として申請し、令和5年8月に認定を受けた。避難行動要支援者名簿について各自治会に依頼し、可能な限り市と協定できるように調整をしている。
- (木之内委員) 避難施設の認定とあったが、23地区の連絡協議会全体で行う流れになっているのか。認定を受けた施設は町内自治会館等の施設なのか。
- (野崎委員) 神社やお寺などの施設も避難所として使える。
- (茂田委員) 避難所運営委員会の中に、各自治会の自主防災組織の役員は入っているか。
- (野崎委員) 土気地区は46の自治会があったが、自主防災組織がある自治会は46自治会の内37にとどまる。現在、土気地区には15か所に避難所があるが、所属する自治会の多い所と少ない所がある。避難所運営委員会があっても、実際に活動しているかどうか確認できない。
- (木之内委員) 土気地区にある土気高校は避難所になっており、避難所運営委員会もあるが、非常食等の備えがない。必要時には、他の小中学校から譲ってもらうことになる。また、土気南中学校は収容人数千人としているが、新型コロナウイルスの影響により、収容人数千人は現実的でない。地元住民には、どの施設でもいいので、避難するよう呼びかけている。

■あんしんケアセンター

- (福邊委員) 取組項目18「地域の課題解決に向けた連携」の取組として、見守りネットワーク土気会議を月に1回、関係団体と開催している。参加人数は平均16名で、令和5年度は11回実施した。警察や在宅医療・介護連携支援センター、福祉まるごとサポートセンター等に参加してもらっている。その他に、あんしんケアセンターのケアマネジャーが持っている要支援の事例を共有し、どのような地域資源が活用できるか検討するインフォーマルケア会議を開催している。Zoomを活用したハイブリッド方式で行っている。参加人数は平均18名で、令和5年度は11回実施した。
- 取組項目19「自宅療養中の家族がいる家庭への支援」の取組として、認知症サポーター養成講座とジュニア認知症サポーター養成講座を行っている。認知症サポーター養成講座について、7月におゆみ野地区部会で実施し、35名が参加した。ジュニア認知症サポーター養成講座については、大椎小学校の3年生(20名)、越智中学校の1、2年生(66名)、誉田中学校1年生(172名)を対象に行った。前年度は土気小学校の5年生を対象として行ったが、今年度は3年生が対象ということもあり、伝わりやすいように言葉遣いを工夫した。事後アンケートでは、高齢者への手助けについて前向きな意見が多く見られた。
- (事務局) ジュニア認知症サポーター養成講座について、高齢支援班の職員も合同で行っているが、大変反響が大きく驚いている。昨年、YouTubeで講座の動画を公開したところ、再生回数がとても伸びている。職員も力を入れて作ったので、

今後も広げていきたいと思う。

(木之内委員) 見守りネットワーク土気会議について、様々な団体と情報交換ができ、非常に有意義な会議だと感じている。

■社会福祉法人くちなし

(小林委員) 障害を持った方々への関心を高めるための福祉啓発を主に行った。

取組項目4「障害者（児）・その家族が集う場の開設・拡充・情報提供」の取組として、近隣地域の緑の森工業団地内の人たちを対象に、施設に足を運んでもらうために普通救命講習会を行った。コロナ禍の令和4年度までは開催が難しかったが、令和5年度は開催でき、16名が参加した。

取組項目12「防災訓練の充実、意識啓発、体制整備」の取組として、ふれあい福祉フェスティバルを開催した。4年間開催できていない状況であったが、令和5年は開催でき、600名ほどが参加した。緑区ふるさとまつりでは、福祉啓発ブースを設置し、ボッチャ体験会を中心に福祉啓発活動を行った。体験会には300名ほどが参加した。

取組項目2「子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校の交流」の取組について、中学校への福祉教育は、団体同士が関わるものなので、新型コロナウイルスの影響を鑑みて未実施となっている。中学校のキャリア支援教育への参加としては、緑区ではないものの、末広中学校と一宮中学校より希望があり、交流授業に参加している。

■その他意見概要

(木之内委員) おゆみ野の地区部会は障害者福祉委員会を設けており、非常に頻繁に活動している。土気地区でも、おゆみ野地区の活動を見習って、何かできればと考えている。土気の地区部会でも参考にしてもらえれば、民生委員としてもお手伝いしていける。

(小林委員) ボッチャに力を入れている地区部会がある。障害者施設として、ボッチャを取り入れる機会が多いので、ボッチャをきっかけに、地域住民と障害者が交流できる場を作っていければと思う。

おゆみ野エリア

リーダーの進行により、各委員から令和5年度取組状況について発表するとともに意見交換を行った。

■社協地区部会

(角川委員) 令和5年度計画はほとんど実行することができた。新型コロナウイルスの影響も小さくなり、子育てサロンやいきいきサロン、散歩クラブ等のすべての活動において、期待通りの人数が参加した。

取組項目1「情報の収集と共有化」の取組として、おゆみ野地区部会は、令和5年に20周年を迎えており、地区部会の活動のPRのため、20周年計画を作成した他、広報誌「ゆいゆいおゆみ野!」の20周年記念交付を行った。

また、3月2日には、これまで委員の研修会として行っていた「映画上映会」について、今回は20周年を記念して、地域住民も対象とし、上映会の冒頭には、緑区長を招待し、式典を行った。

■民生委員児童委員協議会

(久保委員) 民児協の活動としては、高齢者実態調査において、民生委員を周知することが主な活動になっている。511地区では、民生委員の周知のため、高齢者に対しては高齢者実態調査を行い、子どもに対しては育成委員会の企画したスタンプラリーに参加し、チラシ等を配布した。

また、学校の昔遊びのイベントに参加し、子ども達と交流を深めた。社会福祉協議会や町内自治会連絡協議会等の諸団体との連携・協力をしていく。

令和6年2月には、3年に1度の委員改選の際に行うバス研修を実施した。バス研修は、新規の民生委員と以前から担当している民生委員の交流も兼ねて、現在の地域での課題を学ぶため、他市へ出張した。今回は、地震が増加傾向にあることから、旭市の防災センターを1日見学し、市と地域住民と民生委員のかかわり方について情報を得た。

■町内自治会連絡協議会

(篠原委員) 取組項目6「地域の行事への積極的参加の呼びかけ、文化の伝承」の取組として、今まで新型コロナウイルスの影響で開催できていなかったおゆみ野夏祭りを開催した。参加人数は、以前は4千人ほどの子どもが参加していたが、今回は8千人ほどの子どもが参加した。

その他、町内自治会会長会や自治会長と民生委員の顔合わせを行った。

千葉市と共同でシェアサイクルの場所を決め、10か所に設置したところ、利用者が多く、設置場所を増やしてほしいという意見があったため、4か所に追加で設置した。

民生委員や千葉市、スポーツ振興会等といつでも連携をとれるような体制づくりに努めている。

■老人クラブ連合会

(茂庭委員) 取組項目8「老人クラブの活性化」と取組項目17「健康づくり支援」の取組として、活動促進事業等を行った。指導者研修会は12月に実施し、35名以上参加したが、2月は未実施。県外研修は現在未実施だが、役員研修会として3月28日に15名参加で行う予定。女性委員会研修会は、3地区で開催し、30名が参加した。老人クラブと子供会育成交流会は、児童63名と老人クラブ40名で開催した。交流会では、昔遊びの紹介をした。交流会のお礼に、写真と子どもの書いたお礼文が送られた。

健康づくり・介護予防支援事業については、グラウンドゴルフ大会が195名参加、ワナゲ&ダーツ大会が180名参加、ゲートボール大会が30名参加、ノルディック・ウォークが34名参加、パークゴルフ大会が79名参加した。

地域支え合い事業として、地域の清掃を行う「社会奉仕の日」活動を9月に150名で行った。友愛活動は、24名で研修会や勉強会を行った。

活動支援体制強化事業については、芸能大会を開催し、120名が参加した。芸能大会は弁当とお茶を提供し、10時から14時頃まで開催した。料理教室は、平山地区を中心に開催し、誉田地区と合わせて39名が参加した。また2月に鎌取長寿会で味噌づくりの講習会を行った。各クラブの活動をPRする活動展に向けて、29名で資料作成を行った。歩行、衣類の着脱、臥床と離床の動作、立ち座りの動作等の4つの項目を設けて、自立体力測定を行い、40名が参加した。

今まで9つのクラブで活動をしていたが、誉田の3つのクラブと平山第一シニアクラブが高齢化により、行事を開催する場所まで移動できないという課題があり退会した。

平山エリア

リーダーの進行により、各委員から令和5年度取組状況について発表するとともに意見交換を行った。

■社協地区部会

(伊藤委員) 取組項目1「情報の収集と共有化」の取組として、広報紙を年2回発行した。

取組項目3「高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供」の取組としては、コロナで休止していた「いきいきサロン」が1か所活動を再開した。また、スポーツを取り入れたサロンを新たに開始した。

取組項目4「障害者(児)・その家族が集う場の開設・拡充・情報提供」の取組としては、障害者施設の訪問を実施した。

取組項目5「子育て中の親や子どもが集う場の開設・拡充」の取組としては、「子育てサロン」を月1回実施した。広報に努めた結果、参加者が増加している。

取組項目16「見守り活動の推進」の取組としては、一部の町内自治会で訪問や外からのさりげない見守りを実施している。

取組項目20「ボランティアの確保」の取組としては、町内自治会の回覧版でボランティア募集を実施している。

■町内自治会連絡協議会

(豊田委員) 取組項目2「子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流」の取組としては、平山小学校のセーフティウォッチャーを実施している。

取組項目6「地域の行事への積極的参加の呼びかけ、文化の伝承」、取組項目8「老人クラブの活性化」及び取組項目9「町内自治会の活性化」の取組としては、盆踊り等の地域行事が再開しつつある。

取組項目12「防災訓練の充実、意識啓発、体制整備」の取組としては、平山小学校の避難所運営委員会が備品や設備の確認を行った。今後、コロナで中断している地域住民の避難訓練の再開を検討していきたい。

取組項目14「身近な防犯、安全対策」の取組としては、10町内自治会が協力し青色パトロールを実施している。若い世代の多い町内自治会からの参加率が低いことが課題となっている。

取組項目1「情報の収集と共有化」及び取組項目9「町内自治会の活性化」の取組としては、町内自治会が毎月会議を開催。連協が2か月に1回定例会を開催し、情報の共有を図っている。

取組項目16「見守り活動の推進」の取組としては、コロナで活動を休止している町内自治会では活動の再開を検討していきたい。

■民生委員児童委員協議会

(笹塚委員) 取組項目1「情報の収集と共有化」の取組として、地区部会広報紙を年2回発行している。

取組項目2「子ども達の集いの場の提供・情報提供、地域と学校との交流」の取組としては、民生委員・児童委員と小学校との会議や情報交換会を開催し、情報の共有を図った。また、誉田・平山地区の幼稚園・保育園の園長と連絡会議を開催した。

取組項目3「高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供」の取組としては、コロナで休止していた「いきいきサロン」が1か所活動を再開した。また、スポーツを取り入れたサロンを新たに開始した。

取組項目4「障害者(児)・その家族が集う場の開設・拡充・情報提供」の取組としては、地区部会の障がい者福祉委員会の活動に参加し、障害者施設の訪問を実施した。

取組項目5「子育て中の親や子どもが集う場の開設・拡充」の取組としては、地区部会の「子育てサロン」に協力した。

取組項目12「防災訓練の充実、意識啓発、体制整備」の取組としては、平山小学校の避難所運営委員会に参加し、避難所の運営方法の話し合いや訓練を実施した。

取組項目14「身近な防犯、安全対策」の取組としては、508地区民児協と連携し、有吉中学校のあいさつ運動を行った。

取組項目16「見守り活動の推進」の取組としては、地区の見守り活動団体に協力した。

■社会福祉協議会(生活支援コーディネーター)

(馬場委員) 取組項目3「高齢者が集う場の開設・拡充・情報提供」の取組として、企業の専門性を活かした出張講座の地域での開催を支援し、地域活動の活性化を図った。また、社協のボランティア講座の開催に協力し、地域活動の担い手の養成を図った。

■社会福祉法人ワナーホーム

(末永委員) 障害者総合支援法の改正により、障害者施設では行政や地域住民の代表者等が参加する「地域連携推進会議」を開催しなくなかった。令和7年度から義務化されることから、地域の皆様に会議への参加依頼をすることになるかもしれないので、その際はご協力をお願いしたい。

議題（４）その他（参考事例発表）（全体ワーク）

参考事例について情報共有するため、木之内委員より「健康づくり支援」の取組について、小林委員より「能登半島地震における被災地支援活動報告」について、以下のとおり発表を行った。

■「健康づくり支援」の取組について（木之内委員発表概要）

木之内委員より「健康づくり支援」の取組について、その他資料１を使用して、以下のとおり取組の概要を発表し、情報共有を図った。

- ・緑区は、６区の中で高血圧の方の比率が一番高く、なかでも土気地区の比率が一番高い。
- ・この問題について、地域住民に啓蒙を図るため、土気地区部会の広報誌（「ふくし」第６３号）※を活用し、高血圧によるリスクや血圧を下げるための「３つのすすめ」を掲載した。
- ・この広報誌は、発行部数が１３，０００部あり、魅力的な広告媒体であり、土気地区の町内自治会に加入している１２，０００世帯に配付しているほか、公共施設に配架している。
- ・緑保健福祉センターでも力を入れている問題のため、ぜひ皆様も地域住民に周知して欲しい。

※土気エリアには、４地区の民生委員児童委員協議会があり、全ての民生委員は土気地区部会の理事又は代議員として活動している。現在３名の民児協会長が広報委員会に所属し、地区部会の広報誌の編集に携わっており、４年前から広報誌の一面を使用し、民生委員の活動に関する内容や地域住民に役立つ情報を掲載している。

■「能登半島地震における被災地支援活動報告」について（小林委員発表概要）

小林委員より「能登半島地震における被災地支援活動報告」について、その他資料２を使用して、以下のとおり活動の概要を発表し、情報共有を図った。

- ・能登半島地震における被災地支援のため、DWA T（千葉県災害福祉支援チーム）からの要請を受けて、１月２１日から２７日まで、５名の福祉専門職のチームで金沢市にある１．５次避難所※やDWA T本部の支援活動を行った。
- ・派遣された避難所ではプライベートスペースが確保されておらず、避難者同士の関係性が良好でなく、運営している職員も疲弊している状況であった。
- ・いくつかの避難所を視察したが、お風呂やシャワー、洗濯の設備が整っているところもあり、避難先によって設備の違いが大分あると感じた。
- ・現地では「物資の支援」は十分足りているように見られたが、物資を必要な所に届ける「人の支援」が足りない状況であった。支援者の宿泊先が確保できないことが要因と考えられる。
- ・一方、支援者間の連絡体制については、LINEのオープンチャットを活用する等により、日中も夜間も非常に連絡がとりやすい体制が整備されていたため、今後の被災地支援活動での参考になると感じた。

※１．５次避難所とは、障害を持った方や高齢の方等で普通の避難所での生活が困難な方が、次に避難する福祉的避難所が見つかるまでに利用する避難所。